

サポート支援ツール mlzbxinfo 利用ガイド

サイバートラスト株式会社
更新日 2025/03/31
文書番号 ML-CS-3299



Copyright Cybertrust Japan Co., Ltd. All rights reserved.

目次

第 1 章	はじめに	2
第 2 章	インストール・アップデート手順	3
2.1	MIRACLE ZBX サーバへの影響	3
2.2	バージョンの確認手順	3
2.3	インストール手順	3
2.4	アップデート手順	3
第 3 章	実行手順	4
3.1	mlzbxinfo の実行オプション	4
3.2	MIRACLE ZBX サーバへの影響	4
3.3	mlzbxinfo 実行手順	5

MIRACLE ZBX はサイバートラスト株式会社の登録商標または商標です。

MIRACLE ZBX はサイバートラスト株式会社により作成され、GNU GPLv2 に基づいて配布されています。ソースコード形式及びバイナリコード形式での複製、改変、再配布が許諾されています。お客様は、この許諾条件に同意いただいた場合に限り使用できます。

Asianux はサイバートラスト株式会社の日本における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国及びその他の国における、登録商標または商標です。

RPM の名称は、Red Hat, Inc. の商標です。

その他記載された会社名及びロゴ、製品名などは該当する各社の商標または登録商標です。

1 はじめに

mlzbxinfo は、Zabbix が稼働しているホストの各種ログやハードウェア情報、インストールされているパッケージ情報、MIRACLE ZBX の設定やログなど、さまざまな情報を取得するためのツールです。なお、mlzbxinfo の取得情報の中には、root ユーザでしか取得できないものもあるため、mlzbxinfo コマンドは root ユーザで実行します。

2 インストール・アップデート手順

mlzbxinfo のインストールおよびアップデート手順を解説します。mlzbxinfo の実行には MySQL コマンドが必要となりますので、事前に MySQL パッケージのインストールが必要となります。

2.1 MIRACLE ZBX サーバへの影響

稼働中の MIRACLE ZBX サーバにインストールおよびアップデートをしても、MIRACLE ZBX の設定や監視動作には影響ありません。

2.2 バージョンの確認手順

[バージョン] 部分にパッケージバージョンが表示されます。

```
# rpm -qa mlzbxinfo
mlzbxinfo-[バージョン]
```

2.3 インストール手順

[バージョン] 部分は実際にはパッケージバージョンを指定してください。

```
# rpm -ivh mlzbxinfo-[バージョン] ML.noarch.rpm
準備中...
##### [100%]
1:mlzbxinfo-##### [100%]
```

2.4 アップデート手順

[バージョン] 部分は実際にはパッケージバージョンを指定してください。

```
# rpm -Uvh mlzbxinfo-[バージョン] ML.noarch.rpm
準備中...
##### [100%]
1:mlzbxinfo-##### [100%]
```

3 実行手順

mlzbxinfo の実行手順を解説します。

3.1 mlzbxinfo の実行オプション

通常はオプションを一切指定せずとも実行可能ですが、「-h」を付与して実行することにより詳細なオプション内容を表示可能です。

```
# /usr/sbin/mlzbxinfo -h
Usage: mlzbxinfo [-u user -B db_name | -s | -x]
               [[-H db_host (default localhost)] [-P db_port (default 3306)] | -S socket_file]
               [-h] [-n] [-t compress_type] [-p priority] [-i io_priority]
               [-l line_num] [-o out_directory]

    -u user           username for accessing ZABBIX database
    -B database_name  database name of ZABBIX database
    -H database_host  database host of ZABBIX database (default: localhost)
    -P database_port  database port of ZABBIX database
                     (default: mysql:3306, postgresql:5432)
    -S socket_file    database socket_file of ZABBIX database (don't use with -H or -P)
    -s                skip to collect database
    -x                exclude to collect history data
    -h                This help
    -n                Don't collect /var/log
    -t compress_type  set tar compression from 'xz', 'bz2', 'gz', 'none' (default 'gz')
    -p priority        process priority of mlzbxinfo from -20 to 19 with
                     lower number being higher priority (default 10)
    -i io_priority    set I/O priority of mlzbxinfo from 0 to 8 with
                     lower number being higher priority (default 7)
    -l line_num       number of history records (default 1000)
    -o out_directory  output directory

    If '-u' or '-B' are set, program requires to input database password.
```

3.2 MIRACLE ZBX サーバへの影響

デフォルトの設定では、mlzbxinfo 実行時に一時的に CPU 負荷が上昇致します。

MIRACLE ZBX サーバが極端に高負荷な状況でなければ監視動作に影響はありません。

影響を最小限にするためのオプション「-t」、「-p」、「-i」も用意しており、例えば「/usr/sbin/mlzbxinfo -t gz -p 19 -i 8」を指定した場合は、ログデータ圧縮に負荷が比較的軽い gz 圧縮方式を使用し、プロセスの実行優先度を最低にし、IO の使用優先度も最低にし、他のプロセスが IO を使用していないタイミングでのみ動作するようになります。

3.3 mlzbxinfo 実行手順

MIRACLE ZBX サーバにて以下の操作を実施します。

```
# /usr/sbin/mlzbxinfo
=== mlzbxinfo: eval mysqldump_zabbix_db_schema ===
=== mlzbxinfo: eval mysqldump_zabbix_db zabbix zabbix -pzabbix ===
=== mlzbxinfo: eval mysqldump_zabbix_db_history zabbix zabbix 1000 -pzabbix ===
...(中略)...
=== mlzbxinfo: cp /var/log/sa ===

Making "mlzbxinfo-zbx-server-20190322064511.tar.gz"... Done
```

コマンド実行が完了しますと、「mlzbxinfo-」で始まる名前のファイルが生成されます。
このファイルを MIRACLE ZBX サポートへ送付ください。